

観覧料

一般700[560]円
学生600[480]円
中高生・65歳以上350[280]円
*[]内は20名以上の団体料金。
障害をお持ちの方とその介護者、
東京都写真美術館友の会会員、
および第3水曜日は65歳以上は無料
開館時間:10:00~18:00
[木・金は20:00 入館は開館の30分前まで]
休館日:毎週月曜日

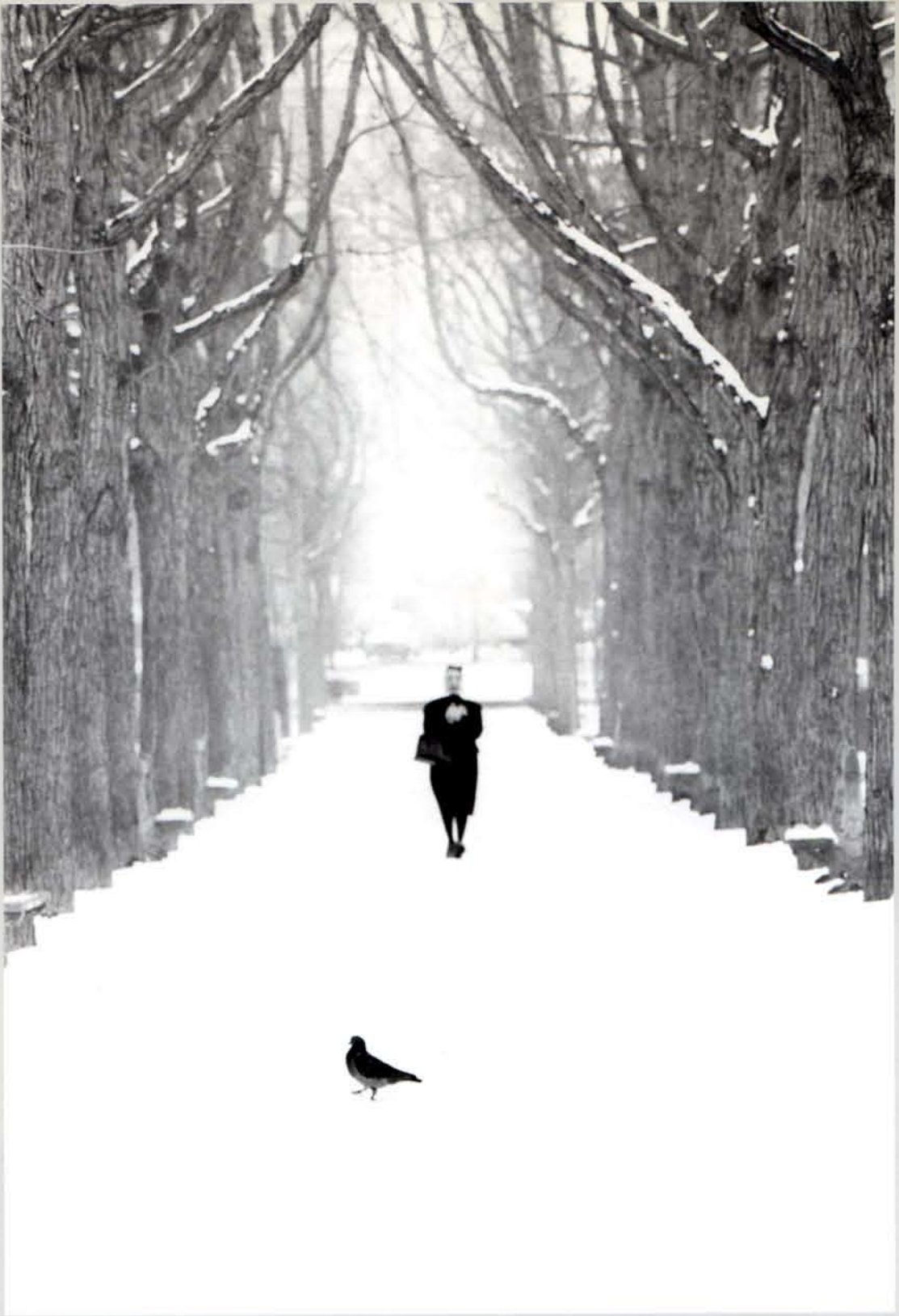
関連ワークショップのお知らせ

作家によるギャラリー・トーク[予約制・有料]
● 6月12日[土] 14:00~16:00
● 7月 3日[土] 14:00~16:00
※両日共、16:30~17:30にサイン会を開催します。
[対象:当日会場にて写真集をお買いあげのお客様]

東京都写真美術館[恵比寿ガーデンプレイス内]
〒153-0062 東京都目黒区三田1-13-3
Tel: 03-3280-0099
http://www.syabi.com/

地下鉄日比谷線恵比寿駅・
JR恵比寿駅東口改札より徒歩約7分

奈良原一高[ならはら・いっこう]
1931年福岡県生まれ。早稲田大学大学院在学中、56年に軍艦島をテーマにした「人間の土地」を発表。59年に第2回ヴェネチア国際写真ビエンナーレで銅賞を受賞、写真家集団「VIVO」を結成。その後、パリやニューヨークを拠点に「ヨーロッパ・静止した時間」「スペイン 偉大なる午後」「消滅した時間」など数多くの作品を発表。96年紫綬褒章授賞。2002年ヨーロッパ写真美術館「パリ」にて個展を開催。



東京都写真美術館では、5月22日より作家活動50周年を迎えた写真家・奈良原一高の個展を開催いたします。本展は日本で初の回顧展となり、氏の処女作となる「無国籍地」「人間の土地」をはじめ、ヨーロッパを鮮烈な視線でとらえた「ヨーロッパ・静止した時間」や広大なアメリカ大陸を旅した「消滅した時間」に加えファッション作品を含む未発表作品、そしてCG(コンピュータ・グラフィック)を駆使した最新作の「HEAVEN(天)」にいたるまで、“記憶”と“旅”をテーマとした秀逸な写真作品を、当館2階展示室および地下1階展示室の2会場を使い一挙公開するものです。世界を駆けめぐり、独自の視点で“ひと”や“もの”を見つめてきた作家による、ユニークな写真世界の時空をご堪能ください。



IKKO NARAHARA

MIRROR OF SPACE AND TIME:SYNCHRONICITY

奈良原一高[時空の鏡:シンクロニシティ]展

僕にとつてのカメラはポータブル・タイムマシンだった。このマシンを携えて旅をしてみると、世界は奇跡に充ちている。

52004

22[土]

7

11[日]

東京都写真美術館2F+B1F展示室[恵比寿ガーデンプレイス内]

主催: 東京都、東京都写真美術館／協賛: ニコン、ニコンカメラ販売、富士写真フイルム、重森弘淹顕彰会／協力: 新潮社、凸版印刷
EPSON、フォト・ギャラリー・インターナショナル、フレームマン、サッポロビール

デザイン: 勝井三雄

東京都写真美術館

1950年代、日本の鏡
Mirror of Japan in the '50s
人間の土地
Human Land
1954-57
不毛に近い自然のエネルギーの中で生きようとする人々、現代社会の構造的エネルギーに囲まれて生きている人々、いづれもそこに、その閉ざされた世界に、隔絶されたその場から逃げることなく、限界状況を生き続ける人間の生を見たように思った。



Text by Ikko Narahara

1950年代、日本の鏡
Mirror of Japan in the '50s
無国籍地
Stateless Land
1954
砲兵工廠や軍需工場の廃墟を被写体とした最初のカメラ・ワークを、僕は何の不思議もなく「無国籍地」と名づけた。〈不毛〉それ自体が生きてゆく手がかりとなりはしめた。



ジャパネスクの鏡
Mirror of Japanese
色
Iro-Courtesans
1968
3年近く住んでいて、ヨーロッパの文化と抱し続けてきた僕の眼に浮世絵の世界は物凄く新鮮なショックを与えた。日本文化は限りなく魅惑的な未知の領域に思えた。この時、「Japanesque」の構想が浮かんだ。



ヨーロッパの鏡
Mirror of Europe
静止した時間
Where Time Has Stopped,1962-65
この旅が個人的な理由で始まったように、このシリーズの物語りも、ひとりの人間の個人的なヨーロッパとの出会いの瞬間で綴られている。多くの異なった国境で区切られているヨーロッパを、このような語り口で描くことは大胆に過ぎるかも知れないが、このシリーズはヨーロッパについての私語であると共に、僕にとつては復活のうたでもあった。あらためて手の中の空を覗くような気持ちだった。



1960年代、ファッションの鏡
Mirror of Fashion in the '60s
海を渡る馬
The Horse Crossing on the Sea
1961年
[ハイファッション] 1961年4号表紙
[何もかもが未知の体験だった。そのワクワク感が60年代だった。]



アメリカの鏡
Mirror of the U.S.A.
星の記憶
Stellar Memories
1970-74
星の光、その光が化石となった時空。星をはざとられた透明な荒野のへりを、車はタイムマシンと化して疾走する。地質学的時間を選び、天文学的空間の記憶をさぐりながら。



21世紀への鏡
Mirror for 21st Century
インナー・フลาวアー
Inner Flower
1991
親しいH医師の協力で、X線の描写レベルを決め、モニターを見ながらポーズを繰り返した。そして、仕上がったX線フィルムを暗室に持ち帰り、集めた花々と自分の手足とを赤い光の中で出会させたのである。僕は自分の置った肉体の中に新しい花を咲かせたかった。



エデンの鏡
Mirror of Eden
エデン——時間的大海
Eden—Sea of Time
1983
普通フィルムの写真行為を闇を照らす光の神秘な歩みにたどるならば、ボラロイドには光の中でゆったりと呼喚する映像の壁やかさを見る思いがする。写真には、光とそれを刻み込む闇とが共に必要なことを両者の関係は暗示しているがのうよう。



21世紀の鏡
Mirror for 21st Century
Vertical Horizon—Tokyo
1995
1995年5月8日、僕は胸腺腫瘍摘出の手術を受けた。
……………
退院して、再び東京の街を歩き始めた僕はちょっと妙なことに気がついた。
重力に異変が起きたかのように、スカイラインが頭の中で輪を描く雰囲気を持ちはじめたのだった。

